

仙台大専後援会

高専祭活動報告書

(令和6年度版)

仙台大専後援会会長 大崎 理恵
(広瀬キャンパス後援会会長)

仙台大専後援会副会長 白戸 敏彦
(名取キャンパス後援会会長)

目 次

1. 名取キャンパス後援会事業
 - (1) 保護者限定100円食堂カレー体験会
 - (2) 後援会 Café よろず相談会
 - (3) その他
2. 広瀬キャンパス後援会事業
 - (1) 後援会バザー
3. 両キャンパス後援会合同事業
 - (1) キャンパス間無料シャトルバス

1. 名取キャンパス後援会事業

(1) 保護者限定100円食堂カレー体験会

① 概要

普段学生が利用している学食を保護者の皆様にも体験いただき、施設を実際にご利用いただくことにより、学校運営に関する理解を深めていただくことを目的とする。学生の保護者とその同伴者（1グループ人数制限なし）を対象に、学食にて100円でカレーを提供した。なお、差額は後援会が負担する。

② 活動実績

両日とも予定していた150食は完売となった。今年は学生の食べ物の出店が多いことから追加の提供は無しとした。

| 日時 | 客数（人） | メニュー | 提供数（食） |
|----------|-------|------|--------|
| 10/26（土） | 150 | カレー | 150 |
| 10/27（日） | 150 | カレー | 150 |

③ 利用者の感想

- ・学食の雰囲気を経験できて良かったです。
- ・100円食堂の企画のおかげで初めて学食に入りました。学校生活の様子が知れて良かったです。
- ・おいしくいただきました。来年も楽しい企画を期待しております。頑張ってください。
- ・カレーは確かに美味しいが、高専祭はあくまでも学生が主人公。学生たちが屋台で売っているのが売れなくなるのでは、ふと思いました。カレースプーンはプラスチックはやめて欲しい。使い捨てならいいが
- ・食堂に地元の野菜を取り入れたメニューが増えればいいなと思いました。



光が差し込む明るい食堂。テラス席も好評でした



両日とも無事完売！

(2) 後援会 Café「よろず相談会」

①概要

在校生の保護者や高専への入学を希望する中学生やその保護者を対象としたカフェ形式の相談所を設け、在校生保護者の立場から相談に応じた。

主な目的は後援会役員と会員である保護者との親睦であるが、本校への入学を希望する現役中学生やその保護者も対象とすることにより、現役中学生の保護者との親睦を深め、進学前の疑問や不安を取り除き、入学希望者の増募対策として学校に寄与することを目的とする。

なお、利用者には無料で飲み物（ペットボトル）とお菓子を提供した。

②活動実績

10/26 相談者 2組+α

10/27 相談者 1組+α

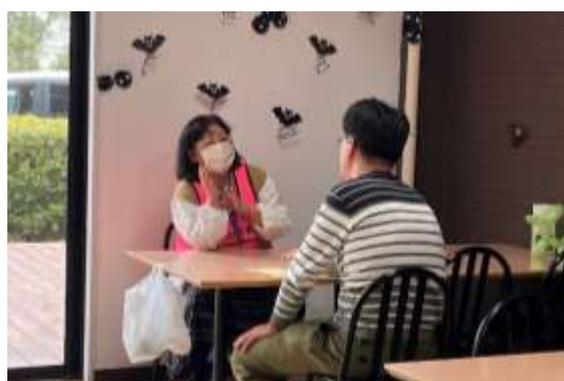
| 相談日時 | 相談者 | 相談内容 |
|-------|-----------------|--|
| 10/26 | 中学生男子 6名 | 現状と受験に向けての相談 |
| | 中学生保護者（父） | 高専と普通高校の違い、寮について (パンフレットを見ながら説明した。) |
| 10/27 | 受験予定者保護者 (母) | 息子との会話が無いのでどうしたら良いか悩んでいる。勉強についての相談など |

③利用者の感想

- ・カフェの飾り付けがかわいらしく素敵でした。
- ・カフェ、とあったのでコーヒーもあったら良かった。



相談風景 1



相談風景 2

(3) その他

①図書館との連携「ミニ古本市」

100円食堂内にミニ古本市コーナーを設け、図書館で開催している古本市をPRするとともに100円食堂利用者にも図書館の本を楽しんでいただいた

食事の後、本を手に取り座席で本を読むお客様の姿が見られた。

また、図書館には後援会活動のチラシを掲示してもらい、相互の活動をPRした。

②来場者交通誘導の協力

学生会執行部交通局の依頼により、高専祭当日の来場者の交通誘導を学生と一緒に行った。

交通局の学生誘導員の補助という形で協力をしたが、同時に100円食堂、後援会カフェのチラシを配り活動の宣伝も行なった。

③子から親へのメッセージ川柳表彰会

6月に行われた「100円食堂」では、親から子へのメッセージ川柳を食堂内に掲示したが、そのアンサー企画として「子から親へのメッセージ川柳」を学生から募集し優秀作品を表彰した。

応募作品は少なかつたものの優秀な作品が寄せられた。

作品は食堂内に掲示し、表彰式は100円食堂のお客さまも巻き込み楽しく行われた。



食堂の一角に設けられた
ミニ古本市



学校入り口で交通誘導



川柳表彰の様子

2. 広瀬キャンパス後援会事業

(1) 後援会バザー

①概要

後援会会員である保護者、広瀬キャンパス教職員、地域の方々からご支援いただいた提供品を販売し、売り上げを次年度高専祭の運営費として例年寄付している。

②活動実績

例年提供品不足で売上が少ない傾向があったが、本年度も教職員への提供品のご支援をお願いした。支援のお願いは郵送物への同封、メールマガジンの配信（10/18 メールマガジン高専祭特集号）で行った。

たくさんの提供品をご支援いただき、バザー会場は大いに賑わった。保護者同士や地域の方々と親睦を深めている様子が見受けられた。当日、後援会役員・実行委員が全員（24名）参加した。今年もHPやメールマガジンを見て来校された方が多かった。結果的に昨年を上回る収益となった。

バザーの収益（1日目79,400円、2日目57,010円）については、無料シャトルバス「しらはぎ号」代の負担金と、「しらはぎ号」の乗車記念品費用へ充て、残りは全て「学生会」へ寄付した。

後援会バザー収益金：136,410円



会場の様子1



会場の様子2

3. 両キャンパス後援会合同事業

(1) キャンパス間無料シャトルバス

① 概要

昨年度に引き続き、名取キャンパスおよび広瀬キャンパスの交流の象徴として学生から要請があった「急行しらはぎ号」（両キャンパスを往復するシャトルバス）の運行について、今年度は運営についても学生と後援会で話し合いの場を設け積極的にサポートを行った。具体的には、費用を支援するだけでなく、乗降時のサポート（見送り、出迎え）や、乗客への記念品の配布を行った。

② 活動実績【両キャンパス】

乗車人数 2日間累計乗車数 177名（1日目 87名 2日目 90名）

広瀬キャンパスでは、乗客に対し後援会からの記念品としてしらはぎ号の乗車券をイメージし3Dプリンターで作成したタグを配布した。また、名取キャンパスでは乗客に対しペットボトルのお茶を配布した。バスの離発着時には後援会実行委員が記念品の配布と、お見送り・お迎えをした。広瀬キャンパスに到着すると、後援会実行委員のお出迎えとともに学生の元気な呼び込みに圧倒された。名取キャンパスでは校長先生もお見送りに参加される場面も見られた。



広瀬キャンパスの乗車記念品



「いってらっしゃーい！」お見送りの様子

③ 利用者の感想

- ・去年に引き続き高いクオリティでサービスを提供しており、とても良い時間を過ごせました。来年もぜひ頑張ってください！
- ・名取の発券場所が乗車場所と離れているので、近くにも発券できる場所があれば良いのでは？と思いました。広瀬の乗車記念品は高専らしくてとても良いと思いました。名取のお茶もありがたかったです。大型バスに久しぶりに乗れてよい経験が出来ました。
- ・可能であれば本数を増やしてほしい。

- ・シャトルバスがあると助かります。ありがとうございました！
- ・来年もぜひ運行をお願いします。